

別 紙

○北海道 東川町

日本全国で過疎化が進んでいる中であって、東川町は毎年人口増加となっている。理由は色々あるものと考えるが、まずは「水」東川町町民は自分達で水を汲み上げて利用している事。旭岳に代表される大雪山、そこに降った雪が地下水に、又森林を育てており、その木を利用した家具づくりも有名だ。更に「米」も美味しい。(2019年に町と民間が協力して作った酒蔵が誕生)。

關心したのは、文化で町おこしをしている事。町は写真文化首都宣言をし「写す、残す、伝える」心を大切に、写真を通して世界の人々を繋ぐ役割を担う町と決意している。又写真の町として基本条例を制定している。

移住者は「水」「空気」「人」が良いので、住んで良かったと話している。

「文化でまちづくり」をすることと言う事は、一朝一夕にはとうてい出来ない。東川町は一途にこつこつと目標に向かい歩んできた結果が町づくりに成功している。我々も目先の事だけに捕らわれず、現在の本町の課題を全てあぶり出し、具体的に町の長期計画を設定し、無理せず、おおさと町らしさを壊さず進んでいく事だ。まだ遅くはない。

○北海道 厚真町

2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震で大きな被害を受けた。

2022年4月に「ゼロカーボンシティ あつま」を宣言。公共、民間を挙げての更なる脱炭素の取り組みに、より持続可能な地域づくりをする為2025年4月に二酸化炭素排出量ゼロに挑戦。太陽光・木質バイオマス発電施設整備による「防災の強化」「公共施設の再生可能エネルギー活用」「被災森林の再生と森林管理による二酸化炭素吸収源の確保」などの取り組みを実施している。

人口減が課題となっている昨年から近隣の千歳市に半導体量産を目指す工場の建設を進めており、従業員の需要も考えられる事から70~100区画に住宅地「ゼロカーボンビレッジ」を整備の予定(2027年度完成)。ゼロカーボン社会の実現と復興まちづくりに向けた努力をしている。

本町も過疎の町、高齢化・人口減に悩んでいる。行き当たりばったりの政策ではなく、厚真町のようにしっかりとした長期計画にのっとった事業にすべきだ。単に良い話があったからではなく、しっかりとした本町の目標を掲げまず挑戦する事。特に環境問題・教育にメスを入れるべきと考える。

国に於いても環境問題重要視しており、様々な補助金も用意されている。

それらをうまく活用し、本町ならではの事業取り組みを考えるべきだ。森林の整備によって温暖化も鳥獣被害も緩和されるものとする。

○北海道 清水町

道内では住民で構成する議会モニター制度設置の動きが高まっている。この制度を初めて導入したのが北海道の栗山町議会。

議会運営に住民の要望、提言を反映させる事が目的でつくられた。

清水町の「清水町議会モニター設置要綱」では、議会定例会の傍聴や色々の会議を通して広報、ホームページへの意見や提言を寄せて頂く事又町議会議員との意見交換を行っている。議会審議や政策提案へ繋がっていると言う事で、着実に成果をあげている。

モニターになる人は町政及び地域社会に関心を持っている人がほとんどで、その人たちとのやり取りから議会改革に大きなメリットがあるものとする。今後、本町の議会改革の一貫としてモニター制度をしっかりと勉強し、制度の設置も一考と思う。

以 上